

文化財の危機!

多くの文化財が存在する街、京都

市議員になる以前、私は10年間文化財保存修復師として、日本の古い絵画を修理する仕事をしていました。文化財の修理には想像以上に多額の資金が必要になります。所有者の方の負担を考えると市の補助金というものが非常に大事になってきます。

京都市には、市の指定また登録文化財が519件あり、国の国宝や重要文化財、登録文化財を合わせると3141件になります(平成30年9月時点)。このように京都市には文化財が数多くあります。実際、修復師だった時代、本格的な修理をしなければならない時期にもかかわらず、補助金があり無ということから応急的な修理で終わらせてしまうところもありました。これから先、日本の人口は減少していきます、もちろん京都市の人口も減少していくと予測されています。しかし文化財は年々件数が増えていきます。文化財は年々増えていくのですから、予算が比例して増えなければどんどん修理が後回しにされるものが出てきます。

しかし、京都市の財政は非常に厳しく、文化財の修理に対する予算が増える見込みは考えにくい状況です。現状のままでは文化財を守り切れなくなります。しかも国の方針では、文化財を保護から活用にシフトし観光資源として積極的に使っていくという流れにもなっています。積極的に活用するという事は、それだけ傷みが進みやすいということ。また、昨今自然災害が増えてきております。いつ文化財へ甚大な被害が出るとも限りません。

修復費用を集める、新たな手法

そういった状況の中、文化財の修復や保存の費用を集める新たな手法として、「クラウドファンディング(CF)」が広がっています。この背景には、やはり国や自治体からの補助

金だけでは費用をカバーできないという実情があります。例えば、大阪府泉佐野市では江戸時代初めに建てられた泉州最古の農家建築「奥家住宅」のCFを始めました。億を超すとみられる保存修理費の半額を国が補助しますが、残りは市の負担です。ふるさと納税を使い、1万円以上の寄付に特産品のタオルなどを提供し、目標額500万円に設定しました。しかし最終149人から690万円が集まりました。今後はこのような手法を積極的に京都市でも取り入れていくべきなのです。

京都を文化財保護の先進都市に

補助金が十分ではなく、文化財の修理件数が減るとするのは、これは文化財が守られないだけでは終わりません。そこに関係する職人、伝統技術、伝統材料、これらすべてが失われていくことに繋がるのです。修理の機会が減れば職人の技術の低下につながり、修理をしている会社の業績も悪くなり新しい人も雇えなくなる。ということは後継者もいなくなります。修理のための材料や道具を作っていた人も商売が成り立たなくなり、そういった店が廃業していきます。

私は常々京都は文化財を守っていくことに関して、世界中でも先進的な都市であるべきだと考えております。千年以上の長い年月を生き抜いてきた文化財というのは、かつて何らかの修理の手を経ているものがほとんどです。必要な修理を繰り返すことで文化財は守られ、何代にもわたって大事に伝えられてきたわけです。現代に生きるわれわれも、この伝統を重んじ、さらにわれわれの次の世代に伝える努力をしていかなければなりません。



皆様のお困りごとをお聞かせください!

「夜道が暗くて、子供たちが心配!」と地域の方からご相談をいただき、街灯を設置してもらいました。このような、地域や身の回りでの困りごと、ご意見・ご要望がございましたら、ご一報下さい。もちろん「神谷修平の市政活動を聞いてみたい!」という方も是非お声がけ下さい。神谷修平が伺います!



SNSアカウントのご案内

日々の活動や想いを発信しています。フォロー大歓迎です!

@kamitanishuhei

kamitani_shuhei

@kamitani.kyotoparty <https://kamitanishuhei.com/>



ポスター掲示のお願い

ポスター掲示のご協力を募っております!

ご自宅の壁や、ガレージ、空き地なども大歓迎です。フェンスの場合は掲示板に取り付けさせていただきます。雨に強い素材ですので、屋根がなくても問題ありません。掲示エリアは京都市内一円です。掲示期間は1月中頃までですが、それ以内のご指定期間も対応致します。ご検討・ご協力いただけます方は、ぜひ神谷事務所までご一報下さい。ご一報をお待ちしております!

